

マーケットの動き（2024年8月12日～8月16日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。米国PPI（卸売物価指数）や7月の米国CPI（消費者物価指数）が米国のインフレ鈍化を意識させる内容であったことからFRB（米国連邦準備制度委員会）による利下げ観測が高まり、債券買いが優勢となりました。その後、7月の米国小売売上高が上振れたことで大幅利下げとなる見方が後退し債券が売られ、低下幅を縮めました。

欧州国債市場は、英国金利がほぼ横ばいだった一方、ドイツ金利は上昇しました。

投資環境見通し（2024年8月）

長期金利は、米国ではレンジ内での動き、欧州（ドイツ）では低下

米国：FRB（米国連邦準備制度理事会）議長は7月末のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、9月に利下げを開始する可能性に言及しました。インフレ関連の経済指標が鈍化傾向にあることが長期金利の低下要因とみられる一方、大統領選挙を前に、次期政権下で財政拡張的な政策が材料視される場面では上昇圧力がかかりやすいとみています。長期金利はレンジ内で推移するとみています。

欧州：フランス政治を巡る先行き不透明感が残りますが、ドイツを中心とした景気下振れの可能性や域内インフレの鈍化を背景とした追加利下げ観測も広がりやすいことから、ドイツ長期金利は低下するとみています。

	8月16日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.89	▲0.05	▲0.28	▲0.40	▲0.38
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	593.86	1.43%	▲4.85%	2.97%	8.96%

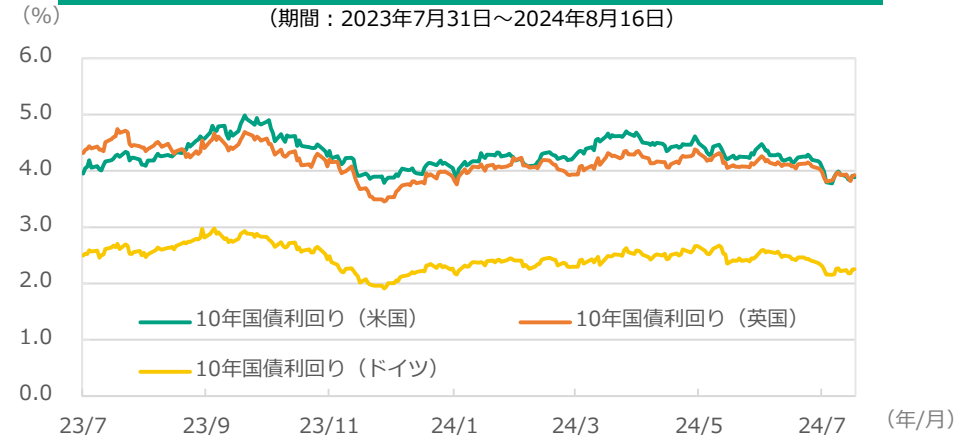
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202408_outlook.pdf

主要国国債利回りの推移

（期間：2023年7月31日～2024年8月16日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2023年7月31日～2024年8月16日）



※2023年7月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>